

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会
時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫
両団体理事長 半 田 晴 久
環境技術委員長 坂 本 忠 彦
専務理事兼事務局長 清 原 淳 平

環境技術委員会のお知らせ (第327回)

日 時 平成28年7月21日(木) 午後1時半～4時

場 所 衆議院第一議員会館 地下1階 第5会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第5会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議 題 1、「環境問題について、昨今、思うこと」

挨拶 坂本忠彦環境技術委員長

2、下水の飲み水処理と材料開発

解説 谷岡明彦東京工業大学名誉教授

3、『環境技術関連ニュース NO.152』

解説 中島稔科学技術部会長

報 告 去る6月23日開催の第326回環境技術委員会は、坂本忠彦委員長が議長を務め行われました。まず、坂本委員長より、「環境問題について、昨今、想うこと」と題して開会挨拶がありました。日本列島は梅雨入りの季節を迎えたが、九州地方では、熊本地震で地盤が弱ったところに大雨が降り、土砂崩れが発生して死者が出ている。そもそも梅雨のイメージとは全くかけ離れた豪雨が降るようになったのはここ最近のことであるが、これが温暖化との関連があるのかどうかはいまだに不明確な部分もある。

次に、藤田豊久東京大学大学院教授より、「持続可能な社会形成へ

の物質循環と環境浄化について」と題して、以下の趣旨の解説がありました。循環型社会の形成のためには、採掘から精錬、加工、回収、再利用に至るまで、有害物質を出さないようにする取り組みが求められる。例えば、鉱石の採掘にあたってヒ素や水銀、セレン等の有害物質が出るが、これを抑制する対策、レアメタルのリサイクル率がほとんど1～10%以下のため、これをどう改善して行くかという技術開発などである。現在、廃棄電子機器類などを、水中で火薬を爆砕させて、400℃に加熱して取り出す方法、同じく水中で超音波を当て、剥離して取り出す方法などを実証実験しているところである。こうした環境浄化の基準は、世界各国によってばらばらで、今EUが最も厳格であると言われている。こうした国際ルール統一に向けても、研究を進めているところである。

次に、中島稔科学技術部会長より、『環境技術関連ニュース NO.151』の解説がありました。今回は、○経産省、温暖化ガスの2030年までに13年比で26%、50年までに80%減少させる目標達成のための検討を開始、省エネの・再生エネの拡大、技術革新、海外での排出削減協力などが柱となっている。○地球温暖化対策のパリ条約が早期発効の可能性、インドや中国の低効率石炭発電所に日本の技術協力を行ってみてはどうか、○海水から不純物を取り除き、ろ過・殺菌する技術、○CO₂からCOへ鉄触媒で効率よく変換する技術を開発。○CO₂を岩石に注入して固形化する技術、○海底鉱物の分布や成り立ちと、プレートなどを調べる広域研究船、「かいめい」が竣工。本年度中はテスト航海を重ね、来年度以降から本格航行予定。○水に強い圧力をかけずに海水から水と塩を分離することが出来るか、膜の実験が行われている、○ナノファイバーを用いて下水を飲料水に浄化する技術、などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★当日会費千円にご協力お願い申し上げます。

次回、7月21日（木）の環境技術委員会に

出・欠（いずれかに○印）

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

新規参加希望者は、予め履歴書をご提出ください。

事務局宛FAX 03-3507-8587

公益財団法人協和協会 03-3581-1192 時代を刷新する会 03-3272-4320

ホームページ <http://www.kyowakyokai.or.jp> Eメール shigeta@jidaisassin.jp